

「国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部2年 (吉松希)

今回のプログラムの学習成果は、中国語の語学力はもちろん英語の語学力が向上したこと、台湾だけでなくほかの国家の文化も学べたことである。今回のプログラムには日本だけでなくロシア・ミャンマー・タイ・インドネシア・インドなど様々な国から参加者が集まった。私のクラスには日本人とロシア人、ミャンマー人がおり、授業での討論ではそれぞれの文化や政治、経済、高齢化や少子化などについて知ることができた。特に教科書で取り上げられていた台湾の歴史や文化についての理解が深まったと思う。これらのことは中国語のみを用いて討論されたので、中国語の上達にとってもよかったと思う。ニュースなどの二次的な情報ではなく、そこに住んでいる人の経験や意見を直接聞くことができるのは非常に貴重なことである。これはとても有意義な経験になった。また、中国語を初めて学習する日本人以外の参加者とは英語しかコミュニケーションの手段がなく、英語を何とか使うしかない。私はその中でもタイからの参加者と親しくなり、彼女から私の英語が最初より上達したと言われたときはとても嬉しかった。

大学入学当初から長期の留学に対して興味を持っていたが、なかなか踏み出せずにいた。しかし、今回のスプリングスクールに参加したことで留学することの楽しさをとても強く感じ、長期留学をする決意ができた。日本人だけでなく様々な国の人々と交流することは、なかなか日本ではできない経験で、とても興味深い経験であった。今回のプログラムに参加しなければ長期留学を決意することはできなかったと思うのでそういった点でも参加してよかったと思う。一カ月にもみたくない留学で様々な経験をし、たくさんのことを学び視野も広がったので、今後長期の留学ではより一層貴重な経験ができるのではないかと期待している。

主なプログラム内容は、中国語の授業・英語による台湾の文化に関する講義・フィールドトリップであった。中国語の授業はうえで述べた通りである。台湾の文化に関する講義は台湾大学の教授によって行われた。どの授業も内容がとても濃いもので、写真や動画も要所要所で使われており、一つの授業は3時間であったが台湾の文化についてたくさん学ぶことができ理解が深まったと思う。フィールドトリップは主に土曜日に行われた。これにはだいたい英語によるガイドがついていたため、その土地の歴史や建造物の特徴など、ただ観光しただけでは知りえないようなこともたくさん聞くことができ非常に興味深いものであった。

今回のスプリングスクールに参加した目的は人それぞれたくさんあると思うが、最初の目的がどんなものであったにしろそれ以上のものが得られるプログラムではないかと思う。